

防災新聞

災害を
生き抜くための
挑戦

昭和33年5月1日に、県下4番目の市として産声を上げた阿南市。今年、市制施行60周年を迎える。この間、先人は豊かな自然環境を生きかしの努力で、今日の繁栄を築き上げた。だが、豊かな恵みを与えてくれる自然は、時に猛威をふるい、市民生活を脅かす。近年頻発する大水害。今世紀前半にも発生する恐れがある南海トラフ巨大地震。私たちが災害を乗り越え、今後100周年に向け、さらに永続的にこの地で生き抜くための挑戦を迫った。

新野町で「民泊」兼「避難所」

シームレス民泊が開業

平時は民泊で地域活性化を、災害時には配慮を要する方の避難所に継ぎ目なく切り替わる全国初の仕組みづくり（シームレス民泊）に新野町住民などが取り組んでいる。



防災体験イベントで簡易担架作製を習う住民＝新野中学校グラウンド

取組の中心となる「新野シームレス民泊協議会」は、本市と災害時に民泊施設で避難者を受け入れる協定を平成29年1月27日に結んだ。協議会は防災部会を作り、災害時に対応できる組織づくりを進めている。会長の関山秀泰さん（67歳）は、「町内の防災意識を高めたい」と話す。機運を高めようと平成29年11月19日、住民向け防災体験イベントを開催した。陸上自衛隊徳島駐屯地の隊員から救出法や簡易担架の作製などを習った。また、地元食品会社が防災食の開発を始めると波及効果も現れている。

関山さんは、「シームレス民泊の先達として全国に新野モデルを発信していきたい」と意気込む。現在、「坊主の宿」「日の丸商店」「熊猫屋（ばんたや）」の3店舗が開業し、2店舗が準備を進めている。

大規模な老人施設で避難訓練

水害想定

大雨による大規模水害を想定した避難訓練が平成29年12月9日、養護老人ホーム「羽ノ浦荘」と特別養護老人ホーム「コスモス」の里（羽ノ浦町）で行われた。参加した職員や住民約50人



避難訓練を行う職員や住民＝岩脇小学校

は、阿南市や国土交通省那賀川河川事務所と協力し訓練に取り組んだ。訓練では、「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたことを合図に避難を開始。職員らは、身体が不自由な入所者役の5人を、車で約2・5キロ離れた避難場所の岩脇小学校まで避難させた。避難完了まで18分かかった。施設長の高松健次さん（69歳）は、「訓練の結果をもとに、避難計画の実効性を高めていきたい」と話した。

改正水防法・土砂災害防止法が平成29年6月に施行され、要配慮者利用施設の避難計画作成を義務付けた。

災害弱者支援を学ぶ

障がい者防災セミナー

災害時に、障がい者などの災害弱者を支援するため、共に考え取り組んでいこうと、「阿南市障がい者防災セミナー」が平成29年10月21日、ひまわり会館で開催され、約90人が災害弱者の支援を学んだ（阿南市身体障害者連合会、阿南市障がい者防災連絡会主催）。



活動を報告する首藤健太さん＝ひまわり会館

セミナーでは、大分県で福祉活動を行っている団体「福祉フォーラムin別府速見実行委員会」事務局長の首藤健太さんが、障がいがあってもなくとも暮らしやすい地域づくりをめざして取り組んでいる活動を報告した。

首藤さんは、自身が平成28年4月に熊本や大分を襲った大地震で被災した体験や、被災者にアンケート調査を行った結果から、災害時に障がい者が生き残っていくためには、地域とのつながりが大切になってくると言う。それは、障がい者が地域にもっと出ていき自分のことを周囲の人に伝えること、地域でも障がい者を理解し住民同士のつながりを構築しておくことが大切であると訴えた。

また、大分県別府市危機管理課防災推進専門員の村野淳子さんが、別府市の災害弱者支援の取組を紹介した。

被災体験を語り継ぐ

福井町でワークショップ



被災体験を発表する西條益生さん＝福井公民館

被災体験を教訓として後生に語り継ぐと「災害を語り継ぐワークショップin徳島」が平成29年12月9日、福井公民館で開催された（北淡震災記念公園震災の語りべボランティア主催）。震災語り部など約30人が参加し、被災体験をいかに伝えるか話し合った。昭和南海地震や阪神淡路大震災の語り部5人が、当時の体験を発表。福井町の西條益生さん（81歳）は、昭和南海

地震で被災した経験から「過去の震災から学び、日頃から対策を取っておくこと。家族や近隣と災害時の共通認識を育むことが重要だ」と話した。また参加者から「語り部が高齢化している。何らかの形で被災体験を残す必要がある」「被災者の横のつながり（ネットワーク）が有効」などの意見があった。また、福井町内にある津波の痕跡や記念碑を巡る「まち歩き」も行われた。

津乃峰小がグランプリ

優れた防災教育・活動に取り組む学校を表彰する「第13回ぼうさい甲子園（1.17防災未来賞）」（兵庫県など主催）で、津乃峰小学校が最高位のグランプリを受賞した。

ぼうさい甲子園

地域と連携した取組が評価

沿岸部に位置する津乃峰小学校は、南海トラフ巨大地震による津波に備え、実効的な防災教育を行っている。教育年間計画「防災クロスカリキュラム」を立て、総合的に防災の力が身につくよう取り組む。年間15回に及ぶ避難訓練をはじめ、地元保育所への出前授業、町の防災マップの作製など、地域と連携した活動は多岐にわたる。



訓練する児童＝津乃峰町

また、課外クラブで児童自らに防災グッズを制作させるなど児童の自発性を促す。

津乃峰小学校長の吉田忠司さんは、「防災教育に終わりは無い。児童の命を守るため、地域と共に協力しあって活動を続けていきたい」と話した。

自治体の枠を超えて

避難所確保で 美波町と連携

大規模災害発生時には大量の避難所の確保が必要となることから、自治体の枠を超えた「広域避難」が注目されている。本市は、隣接する美波町と県内初の相互協力協定を平成29年6月29日に締結し、災害への備えを始めた。



交流会で意見交換する住民＝福井南小学校

難者の受入や両市町で協力して避難所の開設・運営を行うことなど。

南海トラフ巨大地震による津波が発生すれば、由岐湾内地区は99パーセントの建物が浸水するとされ、地区住民は滞在できる避難所がない。山側で津波被害がない福井町小野地区の避難所である福井南小学校で避難者を受け入れてほしいとの住民の要望に美波町と本市が応えた。

両地区の親交を深めようと交流会が平成29年9月10日、福井南小学校で行われ住民など約70人が参加した。両地区の住民で協力して小学校周辺の清掃活動した後、避難所運営について意見交換を行った。「災害時のマニュアルが必要」「実践的な防災訓練をしよう」などの意見があった。

小野地区自主防災会会長の中川信行さん（69歳）は、「避難所運営の仕組み作りを進め災害に備えたい」と話した。

住民の絆を深める

中野島地区で防災イベント

住民同士のつながりを深め、災害時の協体制につなげようと、防災イベント「人権啓発から生まれる地域防災」が平成29年11月23日、中野島総合センターで開催され、住民や小中学生など約100人が参加した（柳島教育集会所主催）。参加者は、消火訓練や応急処置、起震車の搭乗体験に取り組んだ。また、岡川沿いをウォーキングし交流の輪を広げた。起震車を体験した達田幸哉さん（阿南



起震車の搭乗体験を行う参加者＝中野島総合センター

一中2年）は、「想像するより強い揺れで驚いた。災害時、みんなを先導できるように防災の知識を深めたい」と話していた。

竹パウダーを活用 阿南工業 災害トイレが最優秀



阿南工業高校が、竹パウダーを使った災害用バイオトイレを開発し、「第15回高校生技術・アイデアコンテスト全国大会」（全国工業高等学校長協会主催）で最優秀賞を受賞した。トイレはコンテナに竹パウダーを入れたもので、攪拌させるスクリーが付けら

れている。竹パウダーの発酵作用に着目し、約100回分処理できる。災害時のトイレ問題のほか、放置竹林対策へもつながる。NPO法人 竹林再生会議と連携し開発した。江上大貴さん（3年）は、「みんなで作ったトイレが最高位を受賞できてうれしい。この経験を社会に出ても生かしたい」と話した。

開発した生徒（機械科3年）

井筒 遥大さん、江上 大貴さん、大坂 侑以さん、小野 元気さん、泰地 珠吏さん、成松 凌太さん

防災に若い力を



青木 正繁さん
（43歳・新野町出身）



避難訓練や防災イベントで参加者にひとときわたくし熱く呼びかける青木さん。「阿南防災士の会」副会長として地域防災活動を引っ張る。

防災に携わるようになったのは、介護老人保健施設に就職したこと。施設管理の業務で、防災士の資格を取るなど防災の知識を身に付けた。転機となったのは、東日本大震災。震災から3カ月、現地を視察するため被災地・宮城県女川町を訪れた。

高台から町を見渡した。何もなくなった町並み…。被害のあまりの壮絶さに打ちのめされた。活動を加速させた。各種講座で講師を務めるほか、「新野シームレス民泊」防災部部長も務める。

青木さんは、「若い世代の参加こそ防災に力を与える」と語る。若者に浸透しているフェイスブックやツイッターなどSNSで情報発信を行う。「若い力で市民を守りたい」と意気込んだ。

モデル避難所運営訓練

妊産婦や乳幼児が安心して避難生活を送ることができるようなモデル避難所の運営訓練が平成29年12月15日、富岡東高校羽ノ浦校で開催され、生徒や住民など約300人が参加した（南部総合県民局保健福祉環境部主催）。

妊産婦・乳幼児に配慮



助産師から乳幼児の扱い方を教わる訓練参加者＝富岡東高校羽ノ浦校

南海トラフ巨大地震が発生し同校が避難所になったとの想定で訓練した。

避難所運営を担当した参加者は、妊産婦や乳幼児専用

用のスペースを確保し、段ボールで柵を作り、ゴム製のマットを敷いた。女性更衣室や授乳室も設けた。

乳幼児を持つ母子17組が避難所を体験した。山本真知子さん（26歳・羽ノ浦町）は、「参加して避難所のイメージがわいて良かった。避難時に必要な物を備えておきたい」と話していた。また、県助産師会の会員が、災害避難時に役立つ授乳方法を伝えた。

阿南南ロータリークラブ 南海トラフ巨大地震 対策プロジェクト

阿南南ロータリークラブは、平成18年に防災委員会を設立し、積極的な防災活動を行っている。「第8回防災啓発標語・ポスターコンクール」を実施し、市内小中学校から、標語539点、ポスター172点の出品があった。優秀作品を下記のとおり展示する。

第8回防災啓発標語・ポスターコンクールの展示

日時 3月1日(木)～29日(木)
8:30～17:00 (29日は15:00まで)
場所 ひまわり会館
展示作品 防災啓発標語 (23点)
防災啓発ポスター (172点)
團 阿南南ロータリークラブ事務局
(ホテル龍宮内 ☎27-2027) へ

防災標語最優秀作品

今きめよう 家族と会う場所 逃げる場所
阿南中学校3年 高原 章郎さん
忘れない 過去の歴史の 大震災
平島小学校5年 泰地 相璃さん
日ごろから 家族でかくにん ぼうさいマップ
津乃峰小学校3年 久米 泰雅さん



阿南第二中学校2年
板垣志桜里さん

防災ポスター 最優秀作品



津乃峰小学校5年
関本 芽吹さん



津乃峰小学校1年
長池 沙樹さん